'98長野オリンピックに向けて－ 土木系学生のボランティア活動

信州大学大学院　学○鈴木素之
信州大学大学院　学　常田和哉　学　西村 彩

１．はじめに

第18回オリンピック冬季競技大会が，1998年(平成10年)2月7日(土)～2月22日(日)の16日間，長野市において開催される．参加国・地域および参加選手・役員数はそれぞれ60数カ国および約3,000人であり，実施競技種目は7競技・68種目にわたる．長野オリンピックは，多くの人々が祭典に集う歓びを実感できる大会をめざしており，ボランティアの活躍がその役割を担うものと期待されている．信州大学工学部においては，「1998年長野冬季五輪ボランティア支援委員会」が組織され，活発なボランティア活動が展開されている．土木・建築系学生に関しては，平成8年3月よりオリンピック関連施設の設計業務の作業を行っている．ここでは，これまでのボランティア活動の成果の一端を紹介する．

２．工学部のボランティア活動

工学部の教職員および学生ボランティアの登録者数は約450名(平成8年9月現在)である．その活動の一つに，コンピュータを用いて情報システム関連の作業を行う「情報ボランティア」がある．その内容は，①過去の競技結果などのデータ収集・入力や②ボランティアのスケジュール管理システム，③選手・大会役員の輸送システムおよび④選手村宿泊システムなどのソフトウェア開発，⑤大会々場および選手宿舎となる施設の図面の作成などであり，⑤に関しては，主に土木・建築系の学生がその作業を行っている．

情報ボランティアでは，大会開催までの準備作業がそのほとんどであるが，大会期間中もその延長でシステムの運用などに当たるものと思われる．

３．ＣＡＤによるオリンピック施設の図面作成

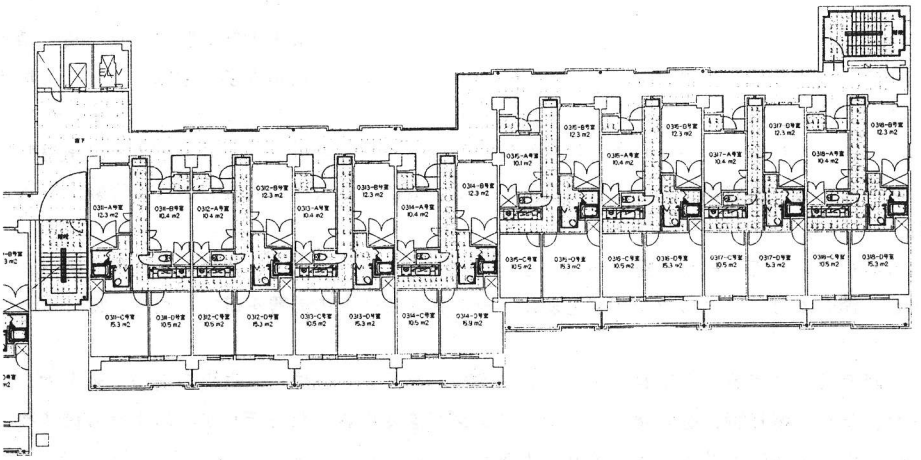
土木・建築系学生の作業チームは23名(平成8年12月現在)であり，その中で2～3人ごとに一つの班に分かれて，長野ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ組織委員会(NAOC)事務局で週に1日3時間程度の作業を行っている．作業は，UNIXワークステーションのCADを用いて選手宿舎となる施設の図面を作成したり，インテリヤのレイアウトをするものである．主なものを列挙すると，

・オリンピックビレッジ（軽井沢）のホテルの図面の作成および各フロアーの部屋割り
・オリンピックビレッジ（今井タウン）の建物配置図の作成
・各競技会場の座席基本図の作成および座席番号の割り付け

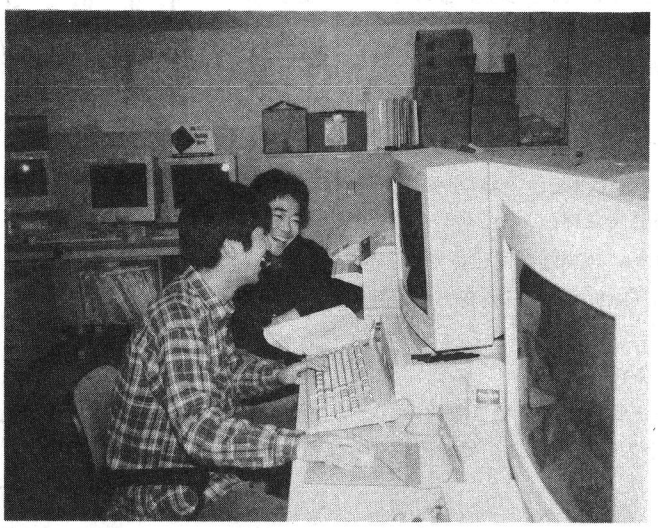
などである．

CADによる図面の作成はほとんどの学生にとって初めてであり，最初はいろいろな失敗（図面を保存せずに終了，誤操作によるコンピュータのハングアップなど）をしたが，NAOC事務局の方々に教わりながら，なんとか立派な図面(右図を参照)をつくることができた．これは，あるホテルのフロアの見取り図であり，完成まで数カ月間かかった力作である．部屋のドアの寸法はベッドなどを搬入する都合から正確になるように何回か書き直した．学生のボランティア活動について感想を聞いてみると，「実際に使ってみたかったCADの操作方法を覚えられて良かった」や「オリンピックの仕事をしているんだという充実感がある」という声が多かったが，あまり関心がなくなったという声もあった．NAOCでの雰囲気はというと，右の写真のように和気あいあいと楽しくやっているが，作業のペースが悪いのではないか(?!)と少々気にかかるところである．

学生の参加は試験や論文などで中断することもあり，「やる気」を維持していくことはあまり簡単ではない．そのようなときでも，また新しく楽しく始められるような雰囲気作りを，みんなで大切にしていきたいと考えている．



図－あるホテルのCADによる作成図面



写真－NAOC事務局での作業風景

４．おわりに

オリンピックの開催まで残すところ11ヶ月となり，ボランティア活動はこれから本格的になる．これより，これまでよりもさらに積極的に取り組む必要があろう．「愛と参加」の長野オリンピックという大会コンセプトがあるように，開催地ならではのオリンピックの「感動＝愛」を，学生ボランティアとして「参加」することによって，より多く味わえられるものと期待している．

【謝辞】ＮＡＯＣ事務局情報通信部主幹の津嶋英哉氏には図面の提供ならびに写真撮影に関していろいろとご配慮頂きました．ここに記して謝意を表します．